



Firepower 8000 シリーズネットワーク モジュールの挿入と取り外し

Firepower 8000 シリーズデバイスは、銅線センシング インターフェイスまたはファイバ センシング インターフェイスのどちらかを含むネットワーク モジュール (NetMod) を使用して、導入時のモジュールの柔軟性を強化します。デバイスは完全に組み立てられた状態で出荷することも、自分でモジュールを設置することもできます。モジュールの交換や変更が必要な場合もあります。このセクションで説明するいくつかの手順を使用して、新しい NetMod の挿入や、インストール済み NetMod の削除または交換を実行します。



注意

NetMod のホットスワップは**できません**。モジュールを挿入または取り外す前に、電源をオフにし、アプライアンスから**両方**の電源コードを抜きます。



コメント

スタック構成で NetMod を交換するときは、最初にセカンダリ ユニットですべての手順を完了してから、プライマリ ユニットで交換を実行します。

FirePOWER 8000 シリーズモジュールについて

Firepower システムを設置する前に、新しいアプライアンスのデバイスを組み立ててください。NetMod に付属の組立説明書を参照してください。



コメント

韓国の認証 (KCC マーク) を受けているフル構成された Firepower デバイスの場合、NetMod を交換するとその構成が変更される可能性があります。詳しくは、アプライアンスの元のコンフィギュレーション マニュアル、および『*Regulatory Compliance and Safety Information for FirePOWER and FireSIGHT Appliances*』マニュアルを参照してください。

モジュール部品の確認

Firepower 8000 シリーズアプライアンスのセンシング インターフェイスには、銅線インターフェイスまたはファイバインターフェイスが付属しています。設定可能バイパス センシング インターフェイスまたは非バイパス センシング インターフェイスを指定できます。モジュールのセンシング インターフェイス、速度、寸法に関係なく、NetMod の付属部品はすべて同一です。

図 B-1 NetMod またはスロット カバーの例(開いた状態)

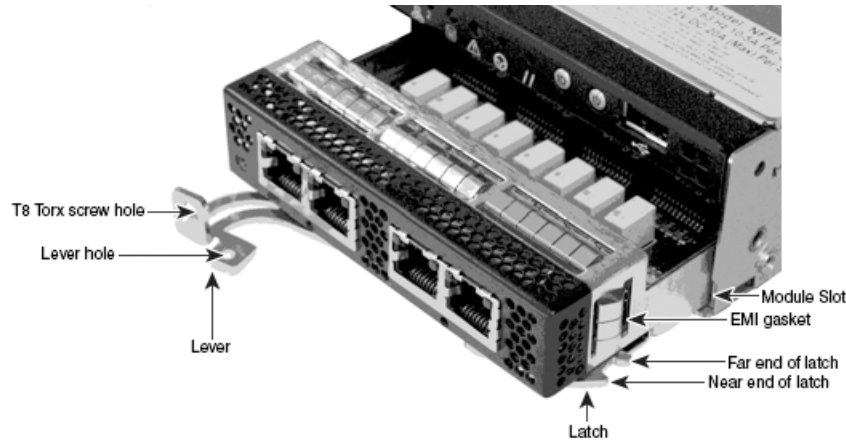
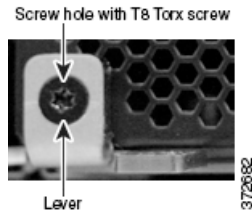


図 B-2 NetMod レバーの例(ネジを穴に取り付け、閉じた状態)



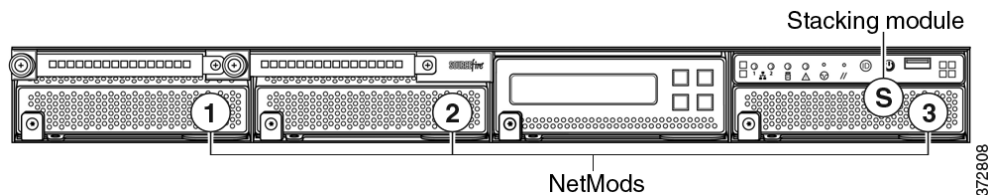
Firepower 8000 シリーズモジュールの詳細については、[Firepower 8000 シリーズモジュール \(2-13 ページ\)](#) を参照してください。

Firepower 8000 シリーズデバイスのモジュール スロット

次のシャーシ前面図に、センシング インターフェイスの NetMod が含まれるモジュール スロットの位置を示します。

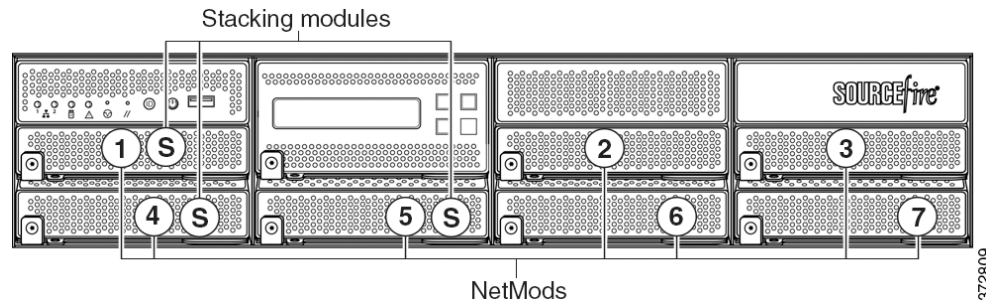
- Firepower 81xx ファミリデバイスの次のスロットでモジュールを使用できます。

図 B-3 Firepower 81xx ファミリのプライマリ デバイス



- Firepower 82xx ファミリおよび 83xx ファミリデバイスの次のスロットでモジュールを使用できます。

図 B-4 Firepower 82xx ファミリーおよび83xx ファミリープライマリ デバイス



スタック設定に関する考慮事項

スタッキング モジュールは、同じ設定を持つ複数のアプライアンスのリソースを統合したものです。どの Firepower 8000 シリーズモデルがスタックをサポートするかの詳細については、[Firepower 8000 シリーズスタック モジュール\(3-10 ページ\)](#)を参照してください。スタック構成デバイスの場合、モジュールを次のように設定します。

- デバイス スタックは展開内で単一のデバイスと同じように使用できますが、いくつかの例外があります。ハイ アベイラビリティ ペアに Firepower 8000 シリーズデバイスがある場合は、デバイスのハイ アベイラビリティ ペアまたはハイ アベイラビリティ ペアのデバイスをスタックできません。
- スタック構成で NetMod を交換するときは、最初にセカンダリ ユニットですべての手順を完了してから、プライマリ ユニットで交換を実行します。
- NetMod はプライマリ デバイスのみに装着します。
- プライマリ デバイスに、スタック構成のセカンダリ デバイスごとに 1 つのスタック モジュールを装着し、もう 1 つのスタック モジュールを各セカンダリ デバイスに装着します。

スタックの詳細については、[スタック構成でのデバイスの使用\(3-11 ページ\)](#)を参照してください。Firepower Management Center でデバイス スタックを管理する方法については、『*Firepower Management Center Configuration Guide*』の「8000 Series Device Stacking」の章を参照してください。

付属品

モジュール アセンブリ キットには T8 トルクス ドライバと、次の 1 つ以上のモジュールが含まれています。

- クワッド ポート 1000BASE-T 銅線設定可能バイパス NetMod。詳細については、[クワッドポート 1000BASE-T 銅線設定可能バイパス NetMod\(2-14 ページ\)](#)を参照してください。
- クワッド ポート 1000BASE-SX ファイバ設定可能バイパス NetMod。詳細については、[クワッドポート 1000BASE-SX ファイバ設定可能バイパス NetMod\(2-15 ページ\)](#)を参照してください。
- デュアルポート 10GBASE (MMSR または SMLR) ファイバ設定可能バイパス NetMod。詳細については、[デュアルポート 10GBASE \(MMSR または SMLR\) ファイバ設定可能バイパス NetMod\(2-16 ページ\)](#)を参照してください。
- デュアルポート 40GBASE-SR4 ファイバ設定可能バイパス NetMod。詳細については、[デュアルポート 40GBASE-SR4 ファイバ設定可能バイパス NetMod\(2-18 ページ\)](#)を参照してください。



コメント

このデュアルスロット NetMod は、容量が 40G の Firepower 8250 か、Firepower または AMP 8350 でのみ使用します。デバイスをアップグレードする必要がある場合は、『Cisco 8000 シリーズ Device 40G Capacity Upgrade Guide』を参照してください。

- クワッドポート 1000BASE-T 銅線非バイパス NetMod。詳細については、[クワッドポート 1000BASE-T 銅線非バイパス NetMod \(2-20 ページ\)](#)を参照してください。
- クアッドポート 1000BASE-SX ファイバ非バイパス NetMod。詳細については、[クアッドポート 1000BASE-SX ファイバ非バイパス NetMod \(2-20 ページ\)](#)を参照してください。
- クアッドポート 10GBASE (MMSR または SMLR) ファイバ非バイパス NetMod。詳細については、[クアッドポート 10GBASE \(MMSR または SMLR\) ファイバ非バイパス NetMod \(2-21 ページ\)](#)を参照してください。



注意

クアッドポート 10GBASE ファイバ非バイパス NetMod は、取り外し不可能な着脱可能小型フォームファクタ (SFP) トランシーバを内蔵しています。SFP を取り外そうとすると、モジュールを破損する可能性があります。

- スタック モジュール。詳細については、[スタッキング モジュール \(2-23 ページ\)](#)を参照してください。



コメント

NetMod を Firepower デバイス上の互換性がないスロットに装着する場合、または NetMod にご使用のシステムとの互換性がない場合は、NetMod を設定しようとするすると管理元の Management Center Web インターフェイスにエラー メッセージまたは警告メッセージが表示されます。支援が必要な場合は、サポートに連絡してください。

アプライアンスの電源オフ



注意

NetMod のホットスワップは**できません**。モジュールを挿入または取り外す前に、電源をオフにし、アプライアンスから**両方**の電源コードを抜きます。

はじめる前に

次のガイドラインを使用してモジュールの挿入または取り外しの準備をしてください。

- すべてのアプライアンスおよびモジュールの部品を確認します。
- NetMod を装着するスロットを確認します。



ヒント

NetMod は、使用可能な互換性のあるスロットに挿入できます。

- EMI ガスケットが正しい位置にあることを確認します。
- アプライアンスがデバイス スタックまたはハイアベイラビリティ ペアに含まれている場合は、Firepower Management Center のメンテナンス モードでデバイスを配置します。
 - [デバイス (Devices)] > [デバイス管理 (Device Management)] を選択します。

- メンテナンス モードを開始するスタック メンバまたはピアの横にある、メンテナンス モード切り替えアイコン(🔧)をクリックします。
- [はい(Yes)] をクリックして、メンテナンス モードを確定します。

手順

-
- ステップ 1** アプライアンスをシャットダウンするには、[システム (System)] > [設定 (Configuration)] を選択します。
- ステップ 2** [プロセス (Process)] を選択します。
- ステップ 3** [アプライアンスのシャットダウン (Shutdown Appliance)] の横にある [コマンドの実行 (Run Command)] をクリックします。
- ステップ 4** アプライアンスからすべての電源コードを抜きます。
-

関連項目

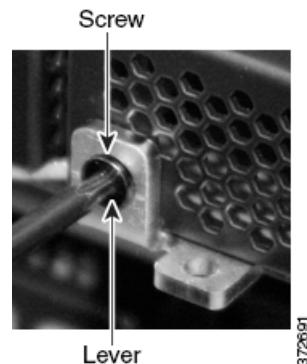
- 『Firepower Management Center Configuration Guide』の「Placing a High-Availability Peer into Maintenance Mode」の章。
- 『Firepower Management Center Configuration Guide』の「Replacing a Device in a Stack in a High-Availability Pair」の章。

モジュールまたはスロット カバーの取り外し

モジュールを扱うときには、リストストラップの装着や静電気防止作業台の使用など、適切な静電気防止 (ESD) 対策に従ってください。損傷を防ぐため、未使用のモジュールは静電気防止用の袋または箱に入れて保存します。

手順

-
- ステップ 1** 付属のドライバを使用して、モジュールのレバーから T8 トルクス ネジを取り外して保管します。

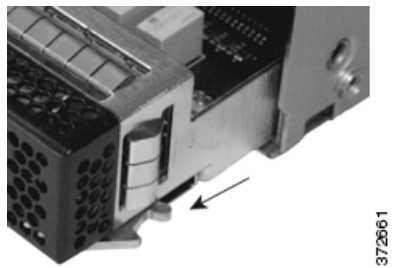


- ステップ 2** ラッチが解除されるまでレバーをモジュールから引き出します。

■ モジュールまたはスロット カバーの挿入



ステップ 3 モジュールを滑らせながらスロットから取り出します。

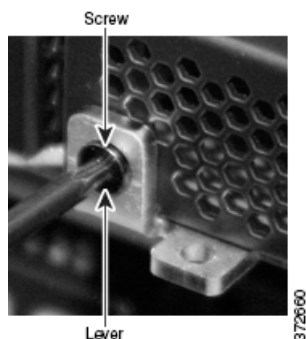


モジュールまたはスロット カバーの挿入

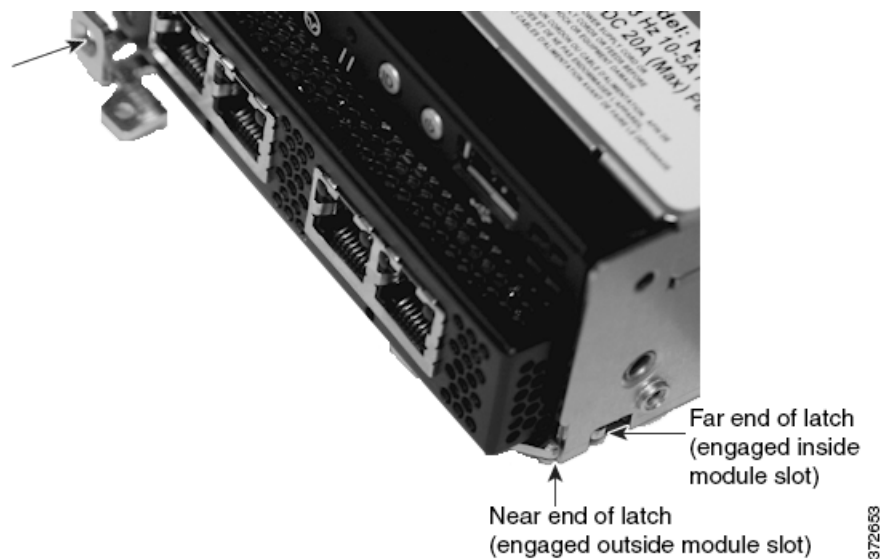
モジュールを扱うときには、リストストラップの装着や静電気防止作業台の使用など、適切な静電気防止 (ESD) 対策に従ってください。損傷を防ぐため、未使用のモジュールは静電気防止用の袋または箱に入れて保存します。

手順

ステップ 1 付属のドライバを使用して、モジュールのレバーから T8 トルクス ネジを取り外して保管します。

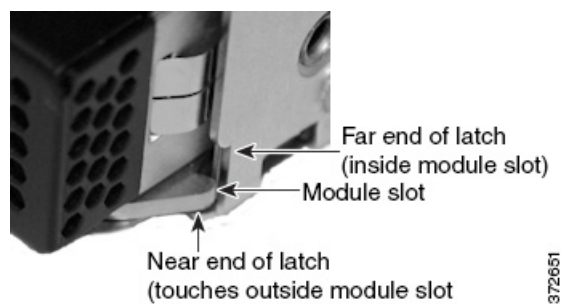


ステップ 2 ラッチが開くまで、レバーをモジュールから引き出します。ラッチの近端が目で確認できます。ラッチの遠端はモジュール内側にあります。

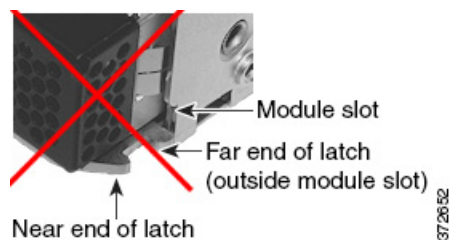


ステップ 3 ラッチの遠端がスロットの内側に入り、ラッチの近端がモジュール スロットの外側に接触するまで、モジュールをスロットに挿入します。

正しいモジュールの配置

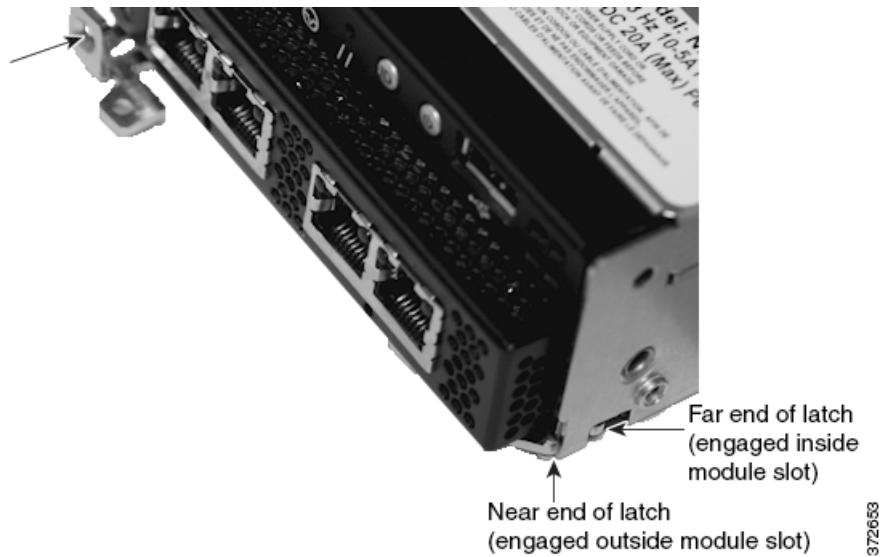


正しくないモジュールの配置



ステップ 4 ラッチがはまり、モジュールをスロットに引き込むまで、レバーをモジュールの方へ押します。

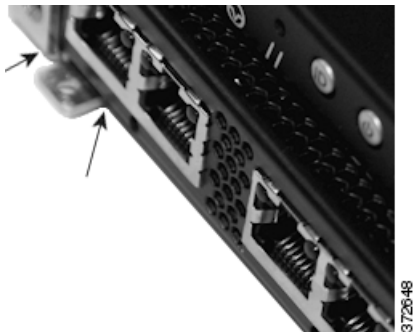
■ モジュールまたはスロット カバーの挿入



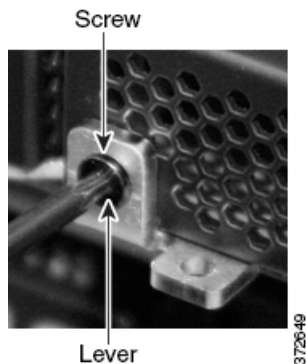
注意

力を入れすぎないでください。ラッチがはまらない場合は、モジュールを取り外して位置を整え直してから、もう一度試してください。

- ステップ 5** ネジ穴部分をしっかりと押し、ラッチが確実にハマるまでモジュールに対してレバーを押し込みます。
- レバーがモジュールにしっかりと押し込まれると、モジュールがシャーンとぴたりと揃います。



- ステップ 6** 保管しておいた T8 トルクス ネジをレバーに差し込んで締めます。



アプライアンスの再起動

はじめる前に

- アプライアンスにすべての電源コードを接続します。
- アプライアンスの電源が完全に入るまで待ちます。これには数分かかる場合があります。

手順

-
- ステップ 1 [システム (System)] > [設定 (Configuration)] を選択します。
 - ステップ 2 [プロセス (Process)] を選択します。
 - ステップ 3 [アプライアンスコンソールの再起動 (Restart Appliance Console)] の横にある [コマンドの実行 (Run Command)] をクリックします。
-

Firepower Management Center での NetMod の検証

手順

-
- ステップ 1 [デバイス (Devices)] > [デバイス管理 (Device Management)] を選択します。
 - ステップ 2 インターフェイスを表示するデバイスの横にある編集アイコン(✎)をクリックします。
 - ステップ 3 [インターフェイス (Interfaces)] タブでインターフェイスを確認します。
 - ステップ 4 アプライアンスがデバイス スタックまたはハイアベイラビリティ ペアに含まれている場合は、Firepower Management Center からデバイスのメンテナンス モードを終了します。
 - [デバイス (Devices)] > [デバイス管理 (Device Management)] を選択します。
 - スタック メンバまたはピアの横にあるメンテナンス モード切り替えアイコン(🔧)をクリックすると、デバイスのメンテナンス モードが終了します。
-

次の作業

- 新しいインターフェイスを設定します。『*Firepower Management Center Configuration Guide*』の「Interface Configuration Settings」の章を参照してください。
- 設定の変更を適用します。

アプライアンスへの変更の適用

デバイス、デバイス クラスタ、またはデバイス スタックの設定に変更を加えた後、それらの変更を適用するまでは、システム全体に変更が反映されません。デバイスが変更適用前の状態でなければ、このオプションは無効になります。


インターフェイスを編集してデバイス ポリシーを再適用すると、編集したインターフェイス インスタンスだけでなく、デバイス上のすべてのインターフェイス インスタンスで Snort が再起動することに注意してください。



ヒント

デバイスの変更を適用するには、[Device Management] ページまたはアプライアンス エディタの [Interfaces] タブを使用します。

手順

-
- ステップ 1 [デバイス (Devices)] > [デバイス管理 (Device Management)] を選択します。
- ステップ 2 変更を適用するデバイスの横にある適用アイコン() をクリックします。
- ステップ 3 プロンプトが出されたら、[Apply] をクリックします。
-